

科目名		世界史 (World History)							
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第2学年	機械工学科 制御情報工学科	履修	2 単位	-	講義	通年	60 時間		
担 当 教 員		【常勤】教授 岩元 修一							
学 習 到 達 目 標									
科目の到達 目標レベル	①時代とともに変化する農業・商業などの人間活動が社会や自然環境にいかなる影響を与えたかを説明できる。 ②世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、説明できる。 ③日本を含む世界の多様な文化に関する理解をもとに、時間の変化の中で互いの文化の違いからどのようにして問題が生じるのか説明できる。 ④今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について説明できる。								
到達目標 (評価項目)	優れた到達レベルの 目安	良好な到達レベルの 目安	最低限の到達レベルの 目安	未到達レベルの 目安					
到達目標 ①	人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、詳細な基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、詳細な基礎的知識をもとに説明できる。	人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。	人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、6割の基礎的知識をもとに説明できない。					
到達目標 ②	世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、詳細な基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	世界の多様な文化生活、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、詳細な基礎的知識をもとに説明できる。	世界の多様な文化生活、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。	世界の多様な文化生活、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、6割の基礎的知識をもとに説明できない。					
到達目標 ③	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について詳細な基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について詳細な基礎的知識をもとに説明できる。	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について6割台の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について6割の基礎的知識をもとに論理的に説明できない。					
到達目標 ④	今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、詳細な基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、詳細な基礎的知識をもとに説明できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。	今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、6割の基礎的知識をもとに説明できない。					
学習・教育到達目標		(F)		JABEE基準1(2)					
達 成 度 評 価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	30	10	10	20				100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎	◎	◎	◎				
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○	○	○	○				
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】									

関 連 科 目 ， 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	現代社会
教科書	高等学校世界史A(第一学習社)
補助教材等	プロムナード世界史(浜島書店)
学 習 上 の 留 意 点	
①評価の6割は講義の学習内容を定期試験で確認します。授業では教科書・副読本を使った説明をよく聞き、講義をしっかり理解し自分の言葉で内容を説明できるようになって下さい。②残りの評価のうち、2割はレポートや課題などの提出を求め評価します。必ず期限までに提出して下さい。③後の2割は授業中、教員が口頭でいろいろ関連項目を質問して口頭で回答してもらい評価します。たとえば評価を付して返却物がもどってきた後、授業で同じ内容を質問した場合に自分の言葉でどの程度回答できるかが評価の基準になります。④なお、欠席状況は各自で担当教員に尋ね確認してください。また、再試はしませんので注意してください。	
担 当 教 員 か ら の メ ャ セ ー ジ	
①過ぎ去った過去を学ぶことにどのような意味があるのでしょうか。私たちは歴史を知らなくてもおそらく普通に生きていきます。しかし、過去の出来事を全く知らないで生きていくことと、それなりに過去の出来事を知って生きていくこととの間には大きな違いがあると私は考えています。結局、どのような人生をあなたが望むかということと関係しています。少しでも豊かな人生を求めるのであれば、出来ることなら、似たような過ちは繰り返さない方がよいでしょうし、周りの人たちといつまでも良い関係でいた方がよいではありませんか。ここでいう過ちが人の生死にかかわることなら尚更です。そのための第一歩は周りのことや相手のことを知ることです。私たちは過去との対話を通して、相手の意見や立場を知ることが可能です。そのことを通してより良く生きていけると考えています。②ふつう歴史は暗記物といわれます。確かに試験では暗記で点を取ることが可能です。しかし、それは一つしか答えがない基礎的な問いについていえることです。一方で世の中には答えが一つではなく、簡単に答えの出せない問いがたくさんあります。2年生の世界史の授業では、基礎的事項の学習が中心となります。それは、答えが簡単に出不ない問いを考えていくために必要な基礎を身につけるためのものであることをよく理解しておいてほしいと思います。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	導入	①授業の進め方と評価方法を説明できる。②過去を振り返る前提となる現代の国家・経済・自然環境の問題を説明できる。	予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
2	東アジア世界（１）	現代の在り方と比較しながら、中国文明の特質を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
3	東アジア世界（２）	現代の在り方と比較しながら、中国中心の東アジア世界の成立と特質を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
4	南アジア世界（１）	現代の在り方と比較しながら、南アジア世界の成立と特質を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
5	南アジア世界（２）	現代の在り方と比較しながら、南アジア及び東南アジア世界の成立と特質を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
6	西アジア世界（１）	現代の在り方と比較しながら、オリエント世界の成立と特質を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
7	西アジア世界（２）	現代の在り方と比較しながら、イスラム世界の成立と特質を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
8	中間試験		
9	・ 答案返却 ・ ヨーロッパ世界（１）	現代の国家と比較しながら、古代ギリシアを中心に当時の国家と社会・文化を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
10	ヨーロッパ世界（２）	現代の国家と比較しながら、古代ローマを中心に当時の国家と社会・宗教を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
11	中世のヨーロッパとキリスト教	現代の国家と比較しながら、当時の国家と社会・宗教を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
12	ユーラシアの交流	海と陸の交流について、具体的に説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
13	モンゴル帝国	遊牧国家の成立とモンゴル帝国による陸からのユーラシアの一体化について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
14	１５世紀の世界	大航海時代の前提となる１５世紀の世界を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
	前期末試験		
15	・ 答案返却 ・ レポートの説明	試験問題の解説を通して試験で間違った箇所について従来の理解を修正できる。夏季課題について説明できる。	予習のため次回の授業の範囲を伝達する。

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	大航海時代の始まりとアメリカ大陸	西欧による世界の一体化について具体的に説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
17	イスラーム世界の再編成	オスマン帝国の成立と社会・文化について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
18	16世紀のヨーロッパ(1)	ルネサンスとルター・カルヴァンの宗教改革について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
19	16世紀のヨーロッパ(2)	イギリスの宗教改革とカトリックの改革について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
20	主権国家の成立(1)	スペインの絶対王政とオランダの独立について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
21	主権国家の成立(2)	オランダ・フランス・イギリスの競合について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
22	産業革命	イギリスで機械化と社会の大きな変化が起きた背景を生活・技術の面から説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
23	中間試験		
24	・ 答案返却 ・ 産業革命の影響	試験問題の解説を通して従来の誤った理解があれば修正できる。自然環境への影響や労働運動と社会主義思想、資本主義の成立について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
25	アメリカの独立	イギリスの北米植民地が独立した背景を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
26	フランス革命	フランス革命の背景と結果を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
27	ナポレオンとラテンアメリカ	ナポレオンの政治とラテンアメリカの独立について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
28	19世紀のアメリカ	南北戦争を中心に19世紀のアメリカについて説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
29	オスマン帝国の衰退	オスマン帝国の改革とバルカン半島の情勢	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
	学年末得試験		
30	・ 答案返却 ・ アンケート実施	試験問題の解説を通して試験で間違った箇所について従来の理解を修正できる。夏季課題について説明できる。	
総 授 業 時 間 数			60 時間